

あつたらしいな
こんな家

地震に強い家

暮らしを守る家

生命・財産・健康を守る

地震の多い日本の国土、これからの住まいづくりに必要なこと

- 絶対条件として地震発生で家が倒壊しないこと
- 住まいは大切な財産、永く住み続けられること
- 住まいの安全と安心が健康をつくる



地震に強い家の条件 大型地震に備える

- 地盤補強……どんなに強固な建物でも、地盤が軟弱では建物は傾いてしまいます。
- 平屋建て……平屋は地震に強いだけでなく、他にも多くのメリットがあります。
- 屋根を軽く……屋根の荷重が重くなるほど建物は地震の影響を受けやすいのです。
- 構造材……宮崎県産の飫肥杉を音響熟成加工した、割れ、折れに強い構造材
- ダブル工法……構造用面材により剛性を高めて地震力に抵抗する『耐震工法』と
摩擦減震装置により地震力が建物に入る前に滑り摩擦抵抗で
減震する『絶縁工法』をダブルで採用しました。



建物を建てるための大前提・・・地盤

- 活断層があるところなのか？
- 近くに河川や池などがあるのか、或いは以前あったのか？
- 干拓等の埋め立て地なのか？
- 火山地帯に多いシラス台地など、土質はどうか？
- 長い歴史の中で地形や土地の状況は変化します。そのために地盤調査を行い結果次第では、地盤改良や杭などの補強工事を行います。



平屋のススメ(土地面積にもよります)

- 建物を平屋にすることで2階の荷重がなくなり、地震に強い家になります。
- 平屋のデメリットは2階建てと比較して、建築コストが割高になることです。
- 平屋のメリットは階段やホール、2階トイレ、バルコニーなどが不要になることで、3~5坪の空間が省けて、その分の建築コストが安くなります。 上記した平屋のデメリットと相殺しても、建築コストはかえって安くなります。
- 動線のムダがなく、家族のコミュニケーションを取りやすくなります。



屋根を軽くする

- 瓦屋根の良さは、何といても見た目の重厚感です。その反対に最大の欠点は 重量が重い事です。
- 粘土瓦とニチハの横暖ルーフαプレミアムと重量を比較すると、仮に延床面積50坪の総二階建てで屋根面積を100㎡とした場合、粘土瓦では約5.0tの重量、横暖ルーフでは約0.5tの重量と約1/10です。



頑丈な構造材

- 構造材は全て4寸角以上で、割れや折れ、腐食やシロアリにも強い宮崎県産の飢肥杉を音響熟成加工しました。赤みの心材部分を使います。強い木材というだけでなく、見た目の暖かさ、落ち着きと共に、杉材の香りがいつまでも長続きします。



地震対策ダブル工法 その1 「耐震工法」

- 木造住宅の地震対策として一般的な「耐震工法」は弊社が従来から採用してきた工法です。
- 構造用面材を外壁下地に貼り、建物の剛性を高めて地震に対応する力を高めます。構造金物を主要部分に使いますので、中間検査では構造や金物部の検査を受けます。



地震対策ダブル工法 その2 「絶縁工法」

免震工法と同じ『絶縁工法』を採用しました。

摩擦減震装置により地震力が建物に入る前に滑り、摩擦抵抗で300～800galの加速度を減震、阪神淡路大震災クラスの大規模地震の揺れを半分にまで減震します。

今回の熊本地震でも、ほとんど被害が見られませんでした。
(メーカーの被害調査報告書がご覧になれます)



自然の力が健康を守る

高い湿度、結露によるカビ、ダニ被害、化学物質対策に

カイケンコーポレーション株式会社の自然素材を採用

■ 木材は宮崎県産の飫肥杉を音響熟成加工

構造材、床材(浮造り)、建具、家具

■ 内部の壁、天井は『幻の漆喰』をコテ塗り仕上げ

■ 竹炭を使った『清活畳』

※詳しくは「元気ホーム」のHPをご覧ください。

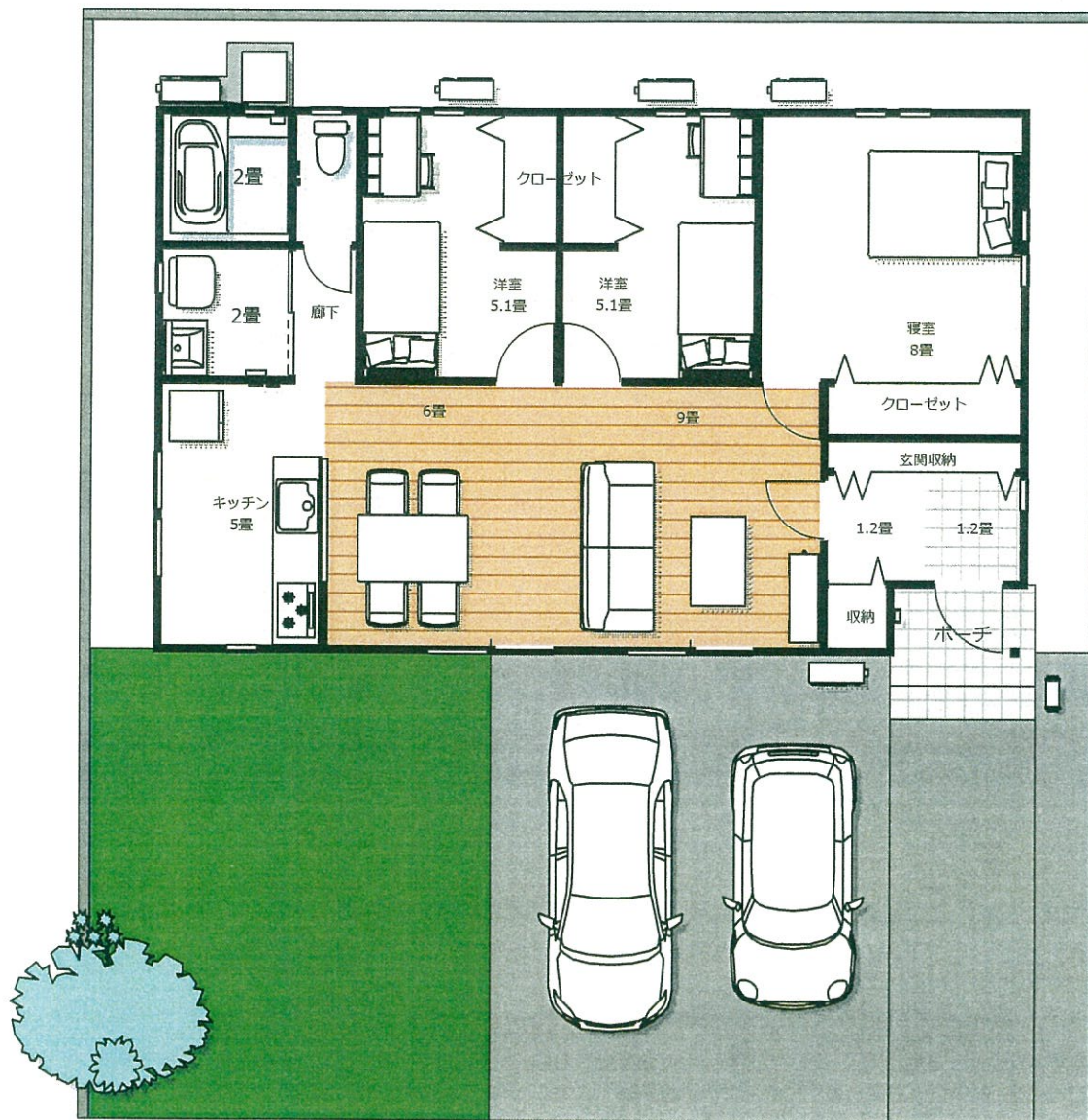


販売価格 1,998万円(消費税8%込み)

四人家族が暮らせる 木造平屋 3LDK 施工面積26坪

- 建築本体価格 延床面積:25.5坪 施工面積:26坪 * 55万円 = 1,430万円
- 建築諸経費 設計料・建築確認申請・検査費用・管理費 = 120万円
- 附帯設備工事 整地・屋外給排水工事・浄化槽(下水道)工事 = 125万円
- 別途工事 外構・照明器具・カーテン・ブラインド・空調 = 175万円
- 計 1,850万円 ※お客様のご要望次第では、金額の増減が発生します。
- 消費税 148万円
- 合計 1,998万円 ※この価格には土地購入代金及び諸費用は含まれておりません。





耐震住宅1



耐震住宅1



耐震住宅1

